

情報かわら版

6



今月の表紙：小麦（品種：夏黄金（なつこがね））

特集

新潟県拠点「みどり戦略取組グループ」 連載第2回

- ・ 北陸農政局「+みどり計画」について
- ・ 有機農産物生産者紹介 ～ 割野きのこ組合（湯沢町）～

トピックス

- 畜産研究の最前線 ～新潟県の畜産業を未来へ～
（新潟県農業総合研究所畜産研究センター）
- アルビレックス新潟の選手と小学生がル レクチエ摘果作業に挑戦！
- 需要に応じた米生産の部屋
～ 加工用米等取組計画の変更手続きについて ～

電子版はこちら

お知らせ

- 水田政策の見直しに関する地方説明会 参加者募集
- 「ノウフク・アワード2026」募集開始！



新潟県拠点みどり戦略取組グループでは、地域で有機農業に取り組む生産者の皆さまを取材し、日々の工夫やこだわり、農業にかける思いなどを連載形式でご紹介していきます。

[次ページへ](#)

今月は、湯沢町の 農事組合法人 割野きのご組合 の取組をご紹介します。 



みどり情報

北陸農政局「+みどり計画」について



地域の環境と食を守る皆様を応援するプロジェクトです！

地域の環境と食を守るため、農業や食の現場で今日も頑張っている地域や人たちがいます。北陸農政局では、こうした方々を応援し、その取組の環を広げていくためのプロジェクト「+みどり計画」を令和7年3月にスタートさせました。

主な活動・コンテンツのご紹介

◆地域の環境と食を守る

地域(みどりあ)や人(みどりと)の紹介

農薬を使わない農業をしている地域や、有機農業で作られた農産物を地元のレストランで提供しているなど、環境と食を守る地域や人を取材し、ご紹介。



◆「地域の環境と食 未来セミナー」の開催

「みどりと」の取組事例や関連施設の紹介、先進的な技術の勉強会などオンラインでのセミナーを開催。



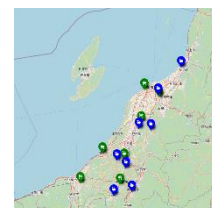
◆わたしの「+みどり宣言！」

環境や食に関するちょっとした「+みどり宣言」を大募集！
応募された宣言は随時プロジェクトサイトに掲載し、みんなで活動を盛り上げます。



◆有機農産物等マップ「ほくりくO-Map」

北陸4県にある国産有機農産物等を取り扱っている店舗(小売店、飲食店)やオンラインショップをマップでご紹介。マップに登録していただけるお店も随時募集中！



◆「+みどり応援隊」募集中！

プロジェクトと一緒に盛り上げてくれるサポーター「+みどり応援隊」を募集しています。農林漁業者、事業者、消費者、研究者など、どなたでもOK。応援隊に登録いただくと、メールマガジンのお届け(月1回程度)やセミナーの開催情報等を優先的にご案内。

◆Instagram で情報発信中！

北陸農政局公式Instagramでは、「+みどり計画」やみどり戦略を分かりやすく知ってもらうための情報発信を行っています。ぜひフォローください！

Follow us



HOKURIKU_MIDORI



詳しくは、北陸農政局ホームページをご覧ください。

 北陸農政局 +みどり計画

安心・安全なものを届けたい なめこのオーガニック栽培

農事組合法人 割野きのこ組合（湯沢町）



▲ 今井美津代 代表理事



▲ 湯沢農場（2022年4月から稼働）

「割野きのこ組合」のご紹介

農事組合法人 割野きのこ組合は、有機JAS取得のなめこの生産・販売を自社で手掛けています。

創業の地、津南町はなめこの生産者も多く、森林組合から技術的支援をいただくなど、生産に取り組みやすい環境でした。

・代表者：今井 美津代 代表理事

・品 目：なめこ

・工 場：湯沢農場

（年間生産量400トン：有機栽培）

津南農場

（年間生産量200トン：慣行栽培）

・従業員数：35名（パート含む）

・ホームページ：<https://warinokinoko.jp/>



なぜ有機JAS？

消費者へ伝えられる「安心・安全」は何かを考えたとき、有機JASが分かりやすいと思い取得を目指しました。



▲ 湯沢農場内の様子

こだわり・工夫

- ・使用できる資材が限られていて、今まで徹底的に研究を重ねて生育のノウハウを蓄積してきた慣行栽培技術をそのまま使うことができませんでした。そのため、菌床資材の配合や栽培管理などについて更なる改良を重ね、現在では、なめこの大きさ、見た目、食感、生産量などが最適な有機なめこの栽培ができるようになりました。
- ・なめこを収穫した後の廃菌床は、農家やJAたい肥センター、養豚農家、フィッシングパークなどへ譲渡し、堆肥の製造やカブトムシの飼育土等に活用してもらうことで再資源化に努めています。

今後の展望等

湯沢農場で直売所を計画中です。

津南や湯沢のおいしい農産物を使った6次産業化を目指しています。

～これから有機農業を目指す生産者へ～

有機JASは使える資材が限られるので、様々な方法を試み、品質と生産量の確保を目指しましょう！



▲ 割野きのこ商品

畜産研究の最前線 ～新潟県の畜産業を未来へ～

新潟県農業総合研究所畜産研究センター

三条市にある「新潟県農業総合研究所畜産研究センター」を訪問して、酪農肉牛科長の村松克久さんにお話を伺いました。

大正5年（1916年）に「新潟県立種畜場」として設置されたのが始まりです。100年以上の歴史を持ち、新潟県の畜産業の発展や推進に大きく貢献しています。

畜産研究センターでは、「付加価値の高い持続可能な農林水産業の実現～畜産物を安定生産する持続可能な経営体の育成に向けた技術開発」を掲げて実用的な研究成果を数多く公表しています。広大な敷地面積を活かし、「にいがた和牛」の品質向上や「にいがた地鶏」のヒナ供給、最新の技術を取り入れたスマート酪農、環境負荷低減（メタン削減）などの試験・研究が日々行われています。

※一部画像は、新潟県農業総合研究所畜産研究センター出典

施設の概要

【職員数】

総務課、酪農肉牛科、生産・環境科 合計39名

【用地、主要施設】

用地：58.1ha（建物敷地15.2、ほ場・採草地26.8、雑木地10.1、道路・運動場6.0）

建物・施設：41棟（本館1、実験棟2、畜舎・その他38）

【飼養家畜】

乳牛：約60頭、肉用牛：約45頭、

豚：約200頭、鶏：約2,000羽



主な研究内容

【早期出荷を可能に！肥育期間の短縮】

にいがた和牛の出荷月齢の早期化（肥育期間の短縮）黒毛和種オス子牛への人工哺乳技術や飼料給与技術（**発酵TMR※**の給与）を工夫し、これまでの約30か月齢出荷よりも早い**24か月齢**での出荷を可能にする技術を確立しました。これにより、飼料代の削減や経営効率の向上がはかられています。

※ 乳牛や肉牛に与えるエサ（牧草、濃厚飼料、ミネラルなど）をあらかじめ最適な栄養バランスで混ぜ合わせ、数週間嫌気発酵させた飼料

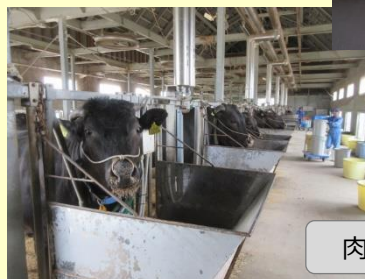
💡 まめ知識 💡

畜産研究センターでは、国の天然記念物「蜀鶏（とうまる）」を飼育しています。平成16年に「蜀鶏」の雄に名古屋種の雌を交配し生まれた雄に、黄斑



プリマスロックの雌を掛け合わせ、新潟県産のブランド化を目的とした「**にいがた地鶏**」を作出しました。

発酵TMR飼料



肉牛の飼養状況

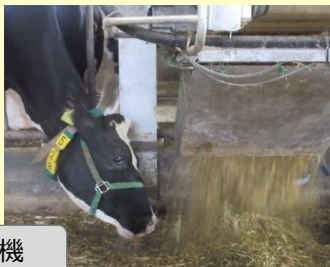
次頁へ

【労働環境を変えるスマート牛舎】

高齢化や担い手不足に対応するスマート畜産の実現に向け、搾乳ロボットや自動給餌機等を活用した省力化による飼養管理技術の研究に取り組んでいます。1日2～3回手作業で行っていた搾乳や給餌にかかる手間から解放され、酪農家の労力の低減がはかられます。また、搾乳時にカメラやセンサーで集計されるデータをパソコンに蓄積し、牛の健康状態や飼養状況の確認を行っています。



自動給餌機



搾乳ロボット

【飼料費低減に向けて】

稲WCS※の安定多収に向けて、従来の主食用コシヒカリに比べ、長稈で飼料特性に優れた稲WCS専用品種「つきはやか」の栽培試験を行っています。また、地域飼料資源の利用に関する研究も行っています。

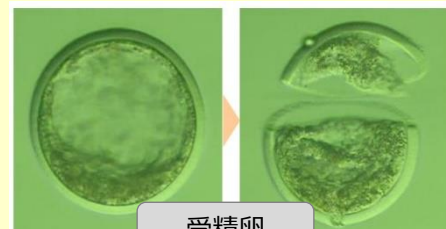
※ 稲の穂と茎葉をまるごと刈り取り、乳酸発酵させてロール状にラッピングした「牛用の発酵粗飼料」



ロールされた稲WCS等

【高能力な子牛生産へ】

受精卵の一部（上部）を採取し遺伝情報検査（ゲノミック評価）で評価。これにより、能力の高い受精卵の残りの部分（下部）を移植して高能力な子牛改良増殖を進めています。



受精卵

【堆肥利用で進める循環型農業】

家畜の排せつ物を質の良い堆肥へと変えて農作物の栽培に利用する「循環型農業」を推進しています。臭いの発生を抑える技術と作物を育てるための堆肥利用を両立させることで、環境に優しく持続可能な利活用を研究しています。

【地球温暖化対策】

牛のゲップに含まれるメタンガスは温室効果が高く、世界的な課題となっています。このため排出量削減に向け、搾乳ロボットを活用した呼気の直接測定や、県内の藻類（アカモクなど）を飼料に混ぜる地産地消型の温室効果ガス低減技術の実証・研究を進めています。

他にも多様な研究を進めています。詳細については、下記のURL又は二次元コードよりご覧下さい。

新潟県農業総合研究所畜産研究センター

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nosoken-chikusan/>



アルビレックス新潟の選手と小学生が 「ル レクチエ」の摘果に挑戦！

アルビレックス新潟では、児童・生徒や選手が農業体験を通じて地域への理解や愛着心を深めることを目的に、農業体験教育「AGRIREX(アグリレックス)」を実施しています。今年で3年目を迎えた「AGRIREX」の取組を取材しました。

新潟を代表する果物 「ル レクチエ」

5月26日(火)に、新潟市南区の白根グレープガーデンで、アルビレックス新潟の内山翔太選手(新潟市出身)と松岡敏也選手(福岡県出身)が、地元の大鷲小学校4年生の児童15名と一緒に「ル レクチエ」の摘果作業を行いました。



▲ 踏み台を使って摘果作業を行う小学生

作業を終えて小学生の感想

- 小さい実を取るのが楽しかった！
- どの実を残せばいいか選ぶのが難しかった！
- おいしいル レクチエができるのが楽しみ！



▲ 摘果作業後の記念撮影

次回の「AGRIREX」は、10月中旬～下旬にル レクチエの収穫作業を予定しています。おいしく育った実の収穫が楽しみです！



▲ 熟したル レクチエ



▲ 摘果作業前のル レクチエ

▲ 収穫時のル レクチエ

摘果 (てきか)

摘果とは、たくさん実った果実の中から、形や大きさ、キズの有無などを確認し、良い実を1つだけ残す作業です。

選手と児童は、「どれを残したらおいしいル レクチエになるかな」と考えながら、葉にかくれた実を探していました。



▲ 踏み台に座ると楽にできるな～と内山選手 (写真中央)

アルビレックス新潟 選手の感想

内山翔太 選手

腰がつかったけど、こうした作業を経て皆さんに届くことに感謝したいです。

松岡敏也 選手

農業体験は初めてでしたが、とても大変だと感じました。子どもたちと一緒に楽しく作業ができました。

主食用米等から加工用米・新市場開拓用米・米粉用米等への切換えを希望する場合は取組計画の変更手続きが必要です！

当初届出した加工用米・新市場開拓用米・米粉用米等の取組計画数量を増やすことができます。

■ このような場合は変更手続きが必要です

- ・ 新たに加工用米等の出荷・販売契約を締結した
- ・ 加工用米等の出荷契約・販売先が変更になった
- ・ 取り組み内容に変更・追加が生じた
- ・ その他、届出した内容と実態が異なる場合 等



■ 手続きの流れ

- ① 変更内容の確認
- ② 実需団体等との契約数量の追加・変更内容の合意
- ③ 変更・関係書類の提出
- ④ 審査・内容確認
- ⑤ 変更手続き完了



■ 提出期限 **令和8年8月20日(木)まで**

※下記のお問い合わせ先まで、
早めのご提出をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

北陸農政局 新潟県拠点 地方参事官室 需給担当

電話：025-228-5290 Email: niigata_keieisyotoku1@maff.go.jp

受付時間：平日 8:30～17:15

変更等が生じたら、
まずはご相談ください！

水田政策の見直しに関する地方説明会開催及び参加者募集

「令和9年度からの水田政策の見直し」について、全国各地の農業者・団体等の関係者の皆様に御説明を行うとともに、御意見を伺いたく、地方説明会(北陸ブロック)を開催します。

開催日時 令和8年7月7日(火) 14時00分から15時30分まで (受付開始13時30分から)

開催形式 対面及びオンライン(Microsoft Teams)



会場 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター
中会議室(201)

定員 一般参加者及び報道関係者合わせて以下のとおりを予定してしております。
対面参加：100名程度 オンライン参加：500名程度

参加申込方法 下記フォームからお申込みください。 **申込締切：令和8年6月30日(火) 17時00分必着**

<申し込みフォーム>

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/hokuriku/form/kikaku/suidenseisaku.html>



農福連携に取り組む優れた事例を表彰！

「ノウフク・アワード2026」募集開始！

～ みんなで耕そう！人・地域・未来の豊かな循環 ～

農福連携等応援コンソーシアム(事務局:農林水産省)は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を表彰する、「ノウフク・アワード2026」の募集を開始しました。

募集対象

農林水産業と福祉等の多様な人材が連携し、障害者等(高齢者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者、犯罪をした者等を含む。)が農林水産分野で能力を発揮することによって、農林水産分野と福祉分野が抱える様々な課題の解決、障害者等の社会参画、農林水産業の維持・発展や地域活性化の実現に貢献している団体等を対象とします。

募集期間

令和8年6月15日(月)から令和8年8月24日(月)まで

応募方法

「ノウフク・アワード2026特設サイト」から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、応募フォームよりファイルをアップロードして、ご応募ください。その際、自薦・他薦は問いません。

ノウフク・アワード2026特設サイト
<https://noufuku.jp/award/>



みんな
で耕
そう！

編集後記

今月の表紙写真は、新潟市秋葉区の小麦(品種:夏黄金)です。新潟県産の小麦は、収穫時期が梅雨と重なり作柄や品質が安定しないことなどから、平成9年産では作付けが無くなってしまいました。その後、新潟の風土に合った品種の開発や生産から販売まで関係者の努力により、作付けが復活してきました。令和4年産以降は小麦を巡る世界情勢もあり県内産への要望が高まり、令和7年産では193haまで増加しています。ちなみに、表紙の「夏黄金」はパン・中華麺用品種として「ゆきちから」より穂発芽しにくく、赤かび病に強い品種です。



▲ 収穫時期を迎えた小麦

お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者(地域の担い手や若手農業者、女性農業者など)の方の集まり等で、「**農業施策の〇〇について聞きたい。**」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

